

＝ コ・メディカル・レポート ＝

VBAC 希望妊婦の STAY を使用した不安調査

—— 非既往帝王切開妊婦と比較して ——

米川 雪枝, 川崎 玲子, 北原 麻美

はじめに

近年, 妊婦自身の分娩に対する意識が高まり, 妊婦自身が主体性を持って分娩に臨むケースが増加してきている。その中で, 帝王切開後の経膈分娩(以下 VBAC: Vaginal Birth After Cesarean section) を希望する事も少なくない。しかし, VBAC には子宮破裂等の重大なリスクがある。VBAC を希望する妊婦にとり, 大きな不安を抱えながら分娩に臨んでいると思われる。それらの不安を少しでも和らげ, 分娩に臨めるように援助していく事が必要と考えた。

そこで今回, VBAC 希望妊婦と非既往帝王切開妊婦の不安について State Trait Anxiety Inventory (以下 STAI) を用い評価, 検討した。

※ STAI (日本語版尺度)¹⁾

スピルバーガーの不安の特性・状態理論に基づいて作られ, 日本語版に翻訳したものである。刻々と変化する不安状態(状態不安)と不安になりやすい性格傾向(特性不安)を測定する尺度の二つから構成されている。状態不安尺度・特性不安尺度の両方において総得点が高いほど不安が高いことを示す。一般女性の場合, 状態不安では 42 点以上, 特性不安では 45 点以上が高得点であるとされている。

研究方法

1. 期間

平成 16 年 8 月～平成 17 年 3 月

2. 対象

① VBAC 希望妊婦(以下, VBAC 妊婦): 26 名
(他施設妊婦含む)

② 非既往帝王切開妊婦(以下, 一般妊婦): 75 名

3. 調査内容

VBAC 妊婦に対し, 対象の背景に関する調査(年齢, 週数, 既往歴, 分娩歴, 帝王切開になった理由, 今回の分娩方法の相談者, 希望理由, 医師からの説明内容, 分娩に対する不安)をした。

VBAC 妊婦と一般妊婦に対し, STAI を使用し, 状態不安, 特性不安を質問形式で用い得点化した。

4. 方法

① VBAC を希望し医師の説明を受け同意した妊婦に対し, アンケート用紙を配布。記入後回収 BOX に投函してもらう。(他施設においては返信用封筒に入れ, 郵送してもらう。)

② 妊婦健診時, 外来にてアンケート用紙を配布。記入後回収 BOX に投函してもらう。

5. 倫理的配慮

当該施設管理責任者の許可・協力を得た上で実施。対象者には文書及び口頭にて, 本研究の趣旨及びアンケートは無記名とし, 本研究以外には使用しないことを説明。

6. 分析方法

統計処理には Excel を使用し, t 検定($p < 0.05$)を行なった。

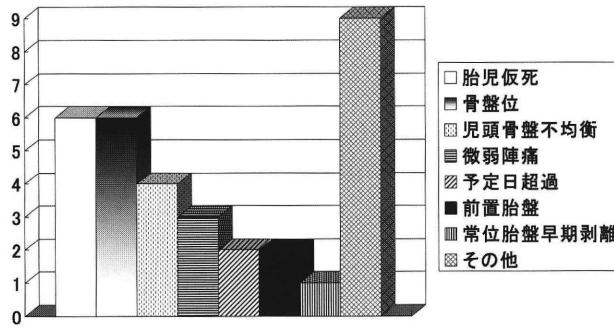


図1. 帝王切開となった理由

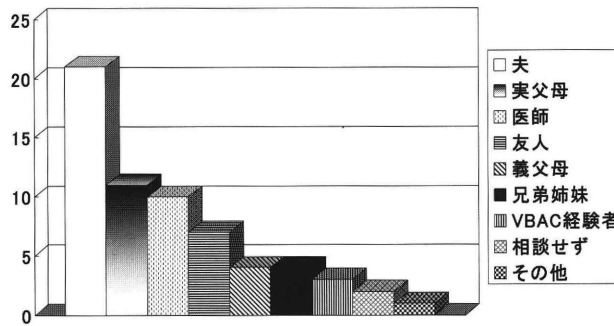


図2. 今回の分娩方法の相談者

結 果

1. 対象の背景

VBAC妊婦26名(妊娠22週以降)平均年齢31.8歳

一般妊婦75名(妊娠27週以降:初産47名 経産28名)平均年齢29.2歳

既往歴:2名(子宮筋腫1名,水腎症1名)

前回帝王切開の理由:胎児仮死6名,骨盤位6名,児頭骨盤不均衡4名,微弱陣痛3名,予定日超過2名,前置胎盤2名,常位胎盤早期剥離1名,その他9名であった(図1)。

今回の分娩方法の相談者:夫21名,実父母11名,医師10名,友人7名,義父母・兄弟姉妹4名,VBAC経験者3名,相談せず2名,その他1名であった(図2)。

VBACの希望理由:自然分娩をしたいと思った20名,産後の回復が早いと思った15名,出産の実感を得たい12名,帝王切開の創の痛みが酷

かった6名,その他6名であった(図3)。

VBACについての医師からの説明:子宮破裂の可能性がある20名,緊急帝王切開の可能性のある17名,VBACにおける条件について10名,子宮破裂による胎児仮死の可能性7名,子宮破裂による処置の可能性6名,帝王切開に比べて入院日数が短い1名,その他4名であった(図4)。

VBACに対する不安:子宮破裂の可能性20名,児の状態について16名,陣痛が自然に来るか8名,陣痛の痛みについて6名,陣痛に耐えられるか4名,産後の経過について4名,会陰部の痛みについて3名,その他2名であった(図5)。

2. STAIによる結果

VBAC妊婦における状態不安得点は,41.5±10.5(平均±標準偏差以下M±SD)であり,特性不安得点は,41.1±12.4(M±SD)であった。一般妊婦における状態不安得点は,43.7±8.2(M±SD)であり,特性不安得点は,41.7±8.5(M±SD)で

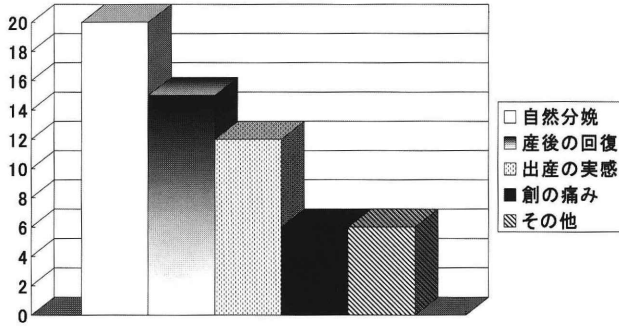


図3. VBAC 希望理由

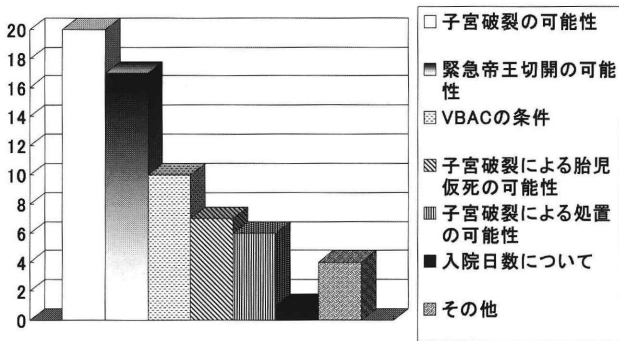


図4. VBAC についての説明

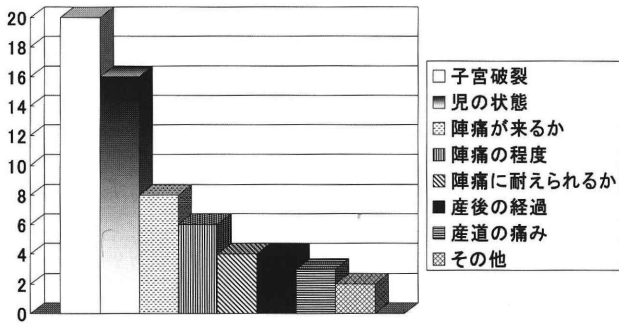


図5. VBAC に対する不安

あった。両者において有意差はみられなかった。また、状態不安得点と特性不安得点との相関をみるとVBAC妊婦は0.718，一般妊婦は0.681と相関関係が認められた。

VBAC妊婦と初産一般妊婦を比較すると、初産一般妊婦における状態不安得点は 44.4 ± 8.6 (M \pm SD)であり、特性不安得点は 41.3 ± 9.2 (M \pm SD)

であった。両者において有意差はみられなかった。

VBAC妊婦と経産一般妊婦を比較すると、経産一般妊婦における状態不安得点は 42.4 ± 7.5 (M \pm SD)であり、特性不安得点は 42.3 ± 7.3 (M \pm SD)であった。両者において有意差はみられなかった(表1)。

VBACに関する医師からの説明項目の選択数

表1. STAI による結果

	VBAC 妊婦	一般妊婦	初産一般妊婦	経産一般妊婦
状態不安得点	41.5±10.5	43.7±8.2	44.4±8.6	42.4±7.5
特性不安得点	41.1±12.4	41.7±8.5	41.3±9.2	42.3±7.3

(平均±標準偏差)

別で状態・特性不安得点を比較すると、0～2項目選択した妊婦は低く、3～5項目選択した妊婦は高いという結果であった(表2)。

考 察

今回の調査において、VBAC 妊婦と一般妊婦との間に不安得点の差はみられなかった。これは、VBAC 妊婦に限らず、分娩前の妊婦は不安が高いためと考えられる。

状態不安得点と特性不安得点とを比較したところ、相関関係が認められた。佐藤らは、状態不安得点と特性不安得点の関連性を報告している²⁾。今回の調査においても、特性不安得点が高いものは状態不安得点が高いことが明らかになった。

水口らの10歳毎の年齢階層別に求めた不安得点に関する調査において、25～34歳の女性107名における状態不安得点は36.9±9.5(M±SD)、特性不安得点は39.5±9.3(M±SD)であった。今回の結果とこれらとを比較すると、それぞれの妊婦において状態不安得点・特性不安得点ともに高い値を示しており、妊娠という変化によって不安が高まるものと考えられる。その中で状態不安得点が高い値を示している様に、分娩が近付くと更に不安になりやすいと考えられる。

しかし、VBAC 妊婦と一般妊婦(初産、経産)とは有意差が認められなかった。VBACに関する医師の説明項目を0～2項目と少なくとも選択した妊婦の不安得点は低く、3～5項目と多く選択した妊婦の不安得点は高いという結果であった。また、VBACについての説明項目と、VBACに対する不安の選択項目が共に子宮破裂に関するものが多かった。しかし、不安得点として表れなかったのは、医療者の説明に対して、妊婦のVBACに対す

表2. VBAC 妊婦の説明内容選択数による STAI の結果

	0～2項目	3～5項目
状態不安得点	39.5±7.9	44.8±13.5
特性不安得点	39.4±10.7	43.9±14.8

(平均±標準偏差)

る認識の違いがある可能性が考えられる。

これらのことより、いずれの妊婦においても不安が高いことや、認識の違いがある可能性を踏まえた上で、妊娠中の保健指導や分娩に対する援助に努めていくことが重要であると思われる。

おわりに

今回、VBAC 妊婦と一般妊婦に不安調査を実施し、それらについて比較検討を行い、次のような結果が得られた。

状態不安と特性不安とは関連性がある。

特性不安得点と状態不安得点に相関がみられ、VBAC 妊婦・一般妊婦とも特性不安得点の高いものは状態不安得点も高いことがわかった。

VBAC 妊婦に限らず、分娩前の妊婦は不安(得点)が高い。

不安状態を明らかにするためには STAI の使用は有効である。

謝 辞

この研究をまとめるにあたり、ご協力下さいました対象者の皆様と、ご指導・ご協力下さいましたスタッフの皆様に深く感謝申し上げます。

文 献

- 1) 水口公信 他: 日本版 STAI 状態特性不安検査 State Trait Anxiety Inventory 使用手引き. 京都, 三京房, 1991
- 2) 佐藤祥子 他: 妊産褥婦における不安の変化—STAI を使用して—. 東北大医療技術短期大学部紀要 5: 115-120, 1996
- 3) 松岡治子 他: 妊娠期・産褥期・育児期の母親の不安について—日本版 STAI を用いた横断的研究—. 母性衛生 43: 13-17, 2002
- 4) 斎藤 克: VBAC の心理過程をのぞく. 産婦人科の実際 52: 207-210, 2003